

## 株式の併合に関する事前開示書面

(会社法第 182 条の 2 第 1 項及び会社法施行規則第 33 条の 9 に定める書面)

2026 年 8 月 21 日  
オリコン株式会社

2026 年 8 月 21 日

東京都港区六本木六丁目 8 番 10 号

オリコン株式会社

代表取締役社長 佐藤 直也

### 株式の併合に関する事前開示書面

#### (会社法第 182 条の 2 第 1 項及び会社法施行規則第 33 条の 9 に定める書面)

当社は、2026 年 8 月 7 日付の取締役会において、2026 年 9 月 7 日開催予定の臨時株主総会（以下「本臨時株主総会」といいます。）を招集し、本臨時株主総会に当社の普通株式（以下「当社株式」といいます。）2,333,576 株を 1 株に併合する株式の併合（以下「本株式併合」といいます。）について付議することを決議いたしました。

本株式併合に関し、会社法（平成 17 年法律第 86 号。その後の改正を含みます。以下同じです。）第 182 条の 2 第 1 項及び会社法施行規則（平成 18 年法務省令第 12 号。その後の改正を含みます。）第 33 条の 9 に掲げる事項は以下のとおりです。

#### I. 会社法第 180 条第 2 項各号に掲げる事項

##### 1. 併合の割合

当社株式 2,333,576 株を 1 株に併合いたします。

##### 2. 株式併合がその効力を生ずる日（以下「効力発生日」といいます。）

2026 年 9 月 30 日（水）（予定）

##### 3. 効力発生日における発行可能株式総数

20 株

#### II. 会社法第 180 条第 2 項第 1 号に掲げる事項についての定め相当性に関する事項

本株式併合における併合の割合は、当社株式について 2,333,576 株を 1 株に併合するものです。当社は、本株式併合は、下記「1. 株式併合の目的及び理由」に記載のとおり、当社株式を非公開化することを目的として行われるものであること、及び以下の各事項に照らして、本株式併合における併合の割合は相当であると判断しております。

##### 1. 株式併合の目的及び理由

当社が 2026 年 5 月 28 日付で公表いたしました「MBO の実施及び応募の推奨に関する

お知らせ」及び2026年6月30日付で公表いたしました「(変更)『MBOの実施及び応募の推奨に関するお知らせ』の一部変更に関するお知らせ」(以下、総称して「本意見表明プレスリリース」といいます。)においてお知らせいたしましたとおり、メディア株式会社(以下「公開買付者」といいます。)は、2026年5月29日から2026年7月14日までの33営業日を公開買付けの買付け等の期間(以下「公開買付期間」といいます。)とする当社株式に対する本公開買付けを実施しました。

そして、当社が2026年7月15日付で公表いたしました「メディア株式会社による当社株式に対する公開買付けの結果並びに主要株主及びその他の関係会社の異動に関するお知らせ」(以下「本公開買付け結果プレスリリース」といいます。)においてお知らせいたしましたとおり、本公開買付けの結果、本公開買付けの決済の開始日である2026年7月22日をもって、公開買付者は当社株式4,103,380株(所有割合(注)31.53%)を所有するに至っております。

(注)「所有割合」とは、当社が2026年6月25日に公表した「第27期有価証券報告書」に記載された2026年3月31日現在の発行済株式総数(15,123,200株)から、当社が同日現在所有する自己株式数(2,109,125株)(但し、当社の役員向け株式給付信託及び従業員向け株式給付信託の信託財産として株式会社日本カストディ銀行が所有する当社株式(176,400株)(以下、当社の役員向け株式給付信託の信託財産として日本カストディ銀行が所有する当社株式(90,000株)を「BBT所有株式(役員向け)」といい、当社の従業員向け株式給付信託の信託財産として日本カストディ銀行が所有する当社株式(86,400株)を「BBT所有株式(従業員向け)」といい、BBT所有株式(役員向け)及びBBT所有株式(従業員向け)を総称して「BBT所有株式」といいます。)は、法令上、議決権が存在することから自己株式数から除きます。)を控除した株式数(13,014,075株)に対する割合を計算し、小数点以下第三位を四捨五入しております。

本取引の目的及び背景の詳細は、本意見表明プレスリリースにおいてお知らせしたとおりですが、以下改めてその概要を申し上げます。なお、以下の記載のうち、公開買付者に関する記述については、公開買付者から受けた説明に基づいております。

本意見表明プレスリリースにおいてお知らせいたしましたとおり、当社は、2026年2月24日に株式会社丸の内キャピタル(以下「丸の内キャピタル」といいます。)及び小池恒氏(以下「小池氏」といいます。)から共同で、株式会社東京証券取引所スタンダード市場に上場している当社株式の全て(但し、当社のその他の関係会社であり筆頭株主である有限会社リトルポンド(以下「リトルポンド」といいます。)が所有する当社株式(4,712,700株、所有割合:36.21%)(以下「本応募株式(リトルポンド)」といいます。)及び当社が所有する自己株式を除きます。)を取得し、当社株式を非公開化し、当社を公開買付者の完全子会社とすることを目的とした取引(以下「本取引」といいます。)に関する協議を開始し、

本取引の実現可能性の精査を目的として当社に対するデュー・ディリジェンスを実施した  
い旨のほか、丸の内キャピタルの会社概要や投資実績、丸の内キャピタルが想定している成  
長支援の方向性、本取引のストラクチャーとして、丸の内キャピタルが設立するSPC（特  
別目的会社）による本公開買付けを通じて、本不応募株式を除く当社株式を取得し、その後  
非公開化を行ういわゆるマネジメント・バイアウト（MBO）を検討している旨を記載した  
法的拘束力を有しない初期的な意向を表明する提案書を受領したことを踏まえ、本取引に  
関する具体的な検討を開始いたしました。

その後、当社は、下記「５．本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避す  
るための措置」に記載のとおり、本取引がマネジメント・バイアウト（MBO）の一環とし  
て行われるものであり、構造的な利益相反の問題が存在すること等を踏まえ、本取引に関し  
て検討を進めるにあたり、本公開買付けにおける当社株式１株当たりの買付け等の価格（以  
下「本公開買付価格」といいます。）の公正性その他本公開買付けを含む本取引の公正性を  
担保すべく、2026年２月25日開催の当社取締役会において、公開買付者、テクノロジー株  
式会社（以下「公開買付者親会社」といいます。）、丸の内キャピタル、丸の内キャピタル第  
三号投資事業有限責任組合（以下「丸の内キャピタル３号ファンド」といいます。）、小池氏  
及びリトルポンド（以下、総称して「公開買付関連当事者」といいます。）から独立したリ  
ーガル・アドバイザーとしてアンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業（以下「ア  
ンダーソン・毛利・友常法律事務所」といいます。）を、公開買付関連当事者から独立した  
ファイナンシャル・アドバイザー及び第三者算定機関として株式会社AGS FAS（以下「AGS  
FAS」といいます。）を、それぞれ選任し、公開買付関連当事者から独立した立場で、当社の  
企業価値の向上及び当社の一般株主の皆様の利益の確保の観点から本取引に係る検討、交  
渉及び判断を行うための体制を構築いたしました。

また、当社は、下記「５．本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避す  
るための措置」に記載のとおり、本取引がいわゆるマネジメント・バイアウト（MBO）とし  
て行われるものであり、構造的な利益相反が存在することを踏まえ、本取引における構造的  
な利益相反の問題及び情報の非対称性の問題に対応し、当社取締役会の意思決定過程にお  
ける恣意性を排除し、本取引の公正性、透明性及び客観性を担保するために、アンダーソ  
ン・毛利・友常法律事務所の法的助言を踏まえ、2026年２月25日開催の当社取締役会にお  
いて、本取引及び公開買付関連当事者から独立した委員によって構成される特別委員会（以  
下「本特別委員会」といいます。）を設置する旨を決議し、本取引を検討するための体制を  
構築いたしました。

上記検討体制の下、当社は、当社の経営環境及び事業の状況等を踏まえ、本取引の是非や  
本公開買付価格を含む本取引の諸条件の妥当性について、本特別委員会により事前に確認  
された交渉方針や本特別委員会からの意見・指示・要請等に基づき、アンダーソン・毛利・  
友常法律事務所及びAGS FASからの助言も随時受けながら、丸の内キャピタル及び小池氏

との間で継続的に協議及び交渉を行い、慎重に検討を行ってまいりました。

具体的には、2026年2月25日付で本特別委員会を設置して以降、本特別委員会における検討・協議を進めました。本特別委員会は、2026年3月4日付で当社に対して、本取引及び本取引後の目的・意義等に関して書面による質問事項を送付し、同月18日付で書面による回答を受領し、同月19日開催の本特別委員会において、当社から、本取引の提案を受けた経緯、本取引の目的、事業環境、経営課題等に関する説明を受け、これらに対する質疑応答を行いました。

また、本特別委員会は、2026年3月24日付で丸の内キャピタル及び小池氏に対して、本取引及び本取引後の経営方針等に関して書面による質問事項を送付し、同月30日付で書面による回答を受領し、同月31日開催の本特別委員会において、丸の内キャピタル及び小池氏から、本取引を提案するに至った経緯及び理由、本取引の目的、当社事業に関する評価、本取引の諸条件、本取引後の経営方針等について説明を受け、これらに対する質疑応答を行いました。

本買付条件変更（以下で定義します。）前の本公開買付価格については、当社及び本特別委員会は、2026年4月7日に、丸の内キャピタル及び小池氏より、当社が2027年3月期の期末配当を無配とすることを前提として、本買付条件変更前の本公開買付価格を1株当たり1,000円（提案日である東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値824円に対して21.36%、同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値849円に対して17.79%、同過去3ヶ月間の終値単純平均値868円に対して15.21%、同過去6ヶ月間の終値単純平均値854円に対して17.10%のプレミアム）、リトルポンドが所有する当社株式を自己株式として取得する（以下「本自己株式取得（リトルポンド）」といいます。）取得価格（以下「本自己株式取得価格（リトルポンド）」といいます。）を671円とする旨の初回提案を受領いたしました。これに対して、当社及び本特別委員会は、2026年4月8日に、当該提案価格は、当社の企業価値及び一般株主の利益保護を重視する立場に鑑み到底受け入れられない水準であるとして、本買付条件変更前の本公開買付価格に係る提案内容の再検討の要請を行いました。その後、丸の内キャピタル及び小池氏より、2026年4月14日、本買付条件変更前の本公開買付価格を1,070円（提案日である2026年4月14日の東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値818円に対して30.81%、同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値840円に対して27.38%、同過去3ヶ月間の終値単純平均値864円に対して23.84%、同過去6ヶ月間の終値単純平均値853円に対して25.44%のプレミアム）、本自己株式取得価格（リトルポンド）を717円とする旨の第2回提案を受領致しました。これに対して、当社及び本特別委員会は、2026年4月15日に、当該提案価格は、当社の企業価値及び一般株主の利益保護を重視する立場に鑑み到底受け入れられない水準であるとして、本買付条件変更前の本公開買付価格に係る提案内容の再検討の要請を行いました。その後、丸の内キャピタル及び小池氏より、2026年4月21日、本買付条件変更前の本公開買付価格を1,150円（提案日である2026年4月21日の東京証券取引所スタンダード市場における当社

株式の終値 816 円に対して 40.93%、同日までの過去 1 ヶ月間の終値単純平均値 830 円に対して 38.55%、同過去 3 ヶ月間の終値単純平均値 859 円に対して 33.88%、同過去 6 ヶ月間の終値単純平均値 853 円に対して 34.82%のプレミアム)、本自己株式取得価格 (リトルポンド) を 769 円とする旨の第 3 回提案を受領致しました。これに対して、当社及び本特別委員会は、2026 年 4 月 22 日に、当該提案価格は、当社の企業価値及び一般株主の利益保護を重視する立場に鑑み依然として不十分であるとして、本買付条件変更前の本公開買付価格に係る提案内容の再検討の要請を行いました。その後、丸の内キャピタル及び小池氏より、2026 年 4 月 27 日、本買付条件変更前の本公開買付価格を 1,200 円 (提案日である 2026 年 4 月 27 日の東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値 1,086 円に対して 10.50%、同日までの過去 1 ヶ月間の終値単純平均値 847 円に対して 41.68%、同過去 3 ヶ月間の終値単純平均値 864 円に対して 38.89%、同過去 6 ヶ月間の終値単純平均値 857 円に対して 40.02%のプレミアム)、本自己株式取得価格 (リトルポンド) を 802 円とする旨の第 4 回提案を受領致しました。これに対して、当社及び本特別委員会は、2026 年 4 月 28 日に、当該提案価格と市場株価を対比したプレミアム率は、直近の当社株式の市場株価の上昇も踏まえると、本取引と類似する非公開化を前提とした MBO 案件と比較して、十分とはいえない水準であるとして、本買付条件変更前の本公開買付価格に係る提案内容の再検討の要請を行いました。その後、当社及び本特別委員会は、丸の内キャピタル及び小池氏より、2026 年 5 月 7 日には、当社株式の株価が従前に比して高いボラティリティで推移していることを踏まえると本買付条件変更前の本公開買付価格の引上げの検討には時間を要すると判断したため、本取引の公表時期を当初予定していた 2026 年 5 月 8 日から延期することが必要である旨の連絡を、同月 15 日には、まずは 2026 年 5 月 21 日を本取引の公表日とすることを旨とした旨の連絡をそれぞれ受領した上で、同月 19 日には、本買付条件変更前の本公開買付価格を 1,280 円 (提案日である 2026 年 5 月 19 日の東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値 1,034 円に対して 23.79%、同日までの過去 1 ヶ月間の終値単純平均値 1,031 円に対して 24.15%、同過去 3 ヶ月間の終値単純平均値 908 円に対して 40.97%、同過去 6 ヶ月間の終値単純平均値 883 円に対して 44.96%のプレミアム)、本自己株式取得価格 (リトルポンド) を 854 円とする旨の第 5 回提案を受領致しました。なお、第 5 回提案によれば、丸の内キャピタル及び小池氏としては当該提案価格には十分なプレミアムが加算されていると考えているものの、当社が 2026 年 5 月 8 日付で公表いたしました「のれんの減損損失の計上および通期連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ」(以下「当社業績差異プレスリリース」といいます。)を公表して以降、当社株式の市場株価が下落したことを踏まえ、当該提案価格の提案に際しては、当該公表がなされる前の当社株式の市場株価が確認できる直近の取引日である 2026 年 5 月 8 日を基準日とした場合の当社株式の市場株価に対してのプレミアムも考慮しており、具体的には、第 5 回提案に係る提案価格の 1,280 円は、2026 年 5 月 8 日の東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値 1,133 円に対して 12.97%、同日までの過去 1 ヶ月間の終値単純平均値 944 円に対して

35.59%、同過去3ヶ月間の終値単純平均値888円に対して44.14%、同過去6ヶ月間の終値単純平均値871円に対して46.96%と十分なプレミアムを付した価格となっているとのことです。これに対して、2026年5月20日、当社及び本特別委員会は、当該提案価格と当社株式の市場株価を対比したプレミアムは、直近の当社株式の市場株価の上昇を踏まえると、本取引に類似する非公開化を前提としたMBO案件と比較して、十分とはいえない水準との理由から、本買付条件変更前の本公開買付価格の引上げを要請し、同日、丸の内キャピタル及び小池氏より、前回同様に本買付条件変更前の本公開買付価格の引上げの再検討には時間を要するため、当社及び本特別委員会に対し、本取引の公表日程についても再考する旨が伝えられ、翌21日に、2026年5月28日を本取引の公表日とすることを目指したい旨が改めて伝えられました。このため、同月22日、当社から丸の内キャピタル及び小池氏に対し、当該日程で各会議体等を調整する旨を回答致しました。その後、丸の内キャピタル及び小池氏より、2026年5月27日、本買付条件変更前の本公開買付価格を1,332円（提案日である2026年5月27日の東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値1,044円に対して27.59%、同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値1,073円に対して24.14%、同過去3ヶ月間の終値単純平均値923円に対して44.31%、同過去6ヶ月間の終値単純平均値893円に対して49.16%のプレミアム）、本自己株式取得価格（リトルポンド）を888円とする旨の第6回提案を受領致しました。なお、第6回提案によれば、丸の内キャピタル及び小池氏としては、当該提案価格は当社業績差異プレスリリースを公表した2026年5月8日を基準日とした場合の当社株式の市場株価に対してのプレミアムも考慮しており、具体的には、当該提案価格の1,332円は、2026年5月8日の東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値1,133円に対して17.56%、同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値944円に対して41.10%、同過去3ヶ月間の終値単純平均値888円に対して50.00%、同過去6ヶ月間の終値単純平均値871円に対して52.93%と十分なプレミアムを付した価格となっているとのことです。これに対して、当社及び本特別委員会は、同日、最終的な意思決定は2026年5月28日に開催される当社取締役会での決議によることを前提として、本買付条件変更前の本公開買付価格を1株当たり1,332円、本自己株式取得価格（リトルポンド）を888円とすることに応諾する旨を回答いたしました。

その後、当社及び本特別委員会は、2026年6月25日、①本公開買付けについては、本公開買付価格を1,332円から1,370円、本取引基本契約（光通信グループ）による本不応募株式（光通信グループ）を考慮して買付予定数を8,211,375株（所有割合：63.10%）から5,678,975株（所有割合：43.64%）、本取引基本契約（光通信グループ）による本不応募株式（光通信グループ）及び公開買付者が2026年6月30日付で小池尚子氏（故人）の法定相続人である小池恒氏、小池秀効氏及び小池結実氏（以下、総称して「本法定相続人」といいます。）から取得した、小池尚子氏（故人）が所有していた当社株式296,600株（所有割合：2.28%。以下「本相続株式」といいます。）の全てについて本公開買付けに応募しない旨及び本相続株式につき本臨時株主総会において本株式併合（以下で定義します。）に関連する

各議案に賛成する旨の議決権の行使を行う旨の誓約書（以下「本誓約書（法定相続人）」といいます。）の取得を踏まえて、買付予定数の下限を 3,903,300 株（所有割合：29.99%）から 1,074,300 株（所有割合：8.25%）へそれぞれ変更する買付条件変更（以下「本買付条件変更」といいます。）を行うこと、また、②HIKARI TSUSHIN INVESTMENTS OKINAWA株式会社（以下「HTIO」といいます。）が光通信株式会社（以下「光通信㈱」といいます。）、UH Partners 2 投資事業有限責任組合（以下「UH Partners 2」といいます。）、UH Partners 3 投資事業有限責任組合（以下「UH Partners 3」といいます。）、光通信KK投資事業有限責任組合（以下「光通信KK」といいます。）及びエスアイエル投資事業有限責任組合（以下「エスアイエル」といいます。以下、光通信㈱、UH Partners 2、UH Partners 3、光通信KK及びエスアイエルを総称して「本不応募合意株主（光通信グループ）」といい、リトルポンドと併せて「本不応募合意株主」といいます。また、本不応募合意株主（光通信グループ）が所有する当社株式の全て（所有株式数の合計：2,532,400 株、所有割合の合計：19.46%）を「本不応募株式（光通信グループ）」といい、本不応募株式（リトルポンド）と併せて「本不応募株式」といいます。なお、本不応募株式の所有株式数の合計は 7,245,100 株、所有割合の合計は 55.67%です。）から現物分配を受けた当社株式の全部を自己株式取得（以下「本自己株式取得（光通信グループ）」といい「本自己株式取得（リトルポンド）」と「本自己株式取得（光通信グループ）」を総称して「本自己株式取得」といいます。）を本自己株式取得価格（光通信グループ）1,233 円にて行うとする旨の提案を受領致しました。これに対して当社及び本特別委員会は、最終的な意思決定は 2026 年 6 月 26 日に開催される当社取締役会での決議によることを前提として、①本公開買付けについては、本公開買付価格を 1,332 円から 1,370 円、本取引基本契約（光通信グループ）による本不応募株式（光通信グループ）を考慮して買付予定数を 8,211,375 株（所有割合：63.10%）から 5,678,975 株（所有割合：43.64%）、本取引基本契約（光通信グループ）による本不応募株式（光通信グループ）及び本誓約書（法定相続人）の取得を踏まえて、買付予定数の下限を 3,903,300 株（所有割合：29.99%）から 1,074,300 株（所有割合：8.25%）へそれぞれ変更する本買付条件変更を行うこと、また、②本自己株式取得（光通信グループ）を本自己株式取得価格（光通信グループ）1,233 円とすることに応諾する旨を回答致しました。その後、当社は、関係当局との調整状況を踏まえ、2026 年 6 月 29 日、2026 年 6 月 26 日に提案した内容のうち、公開買付期間及び決済の開始日に係る内容を修正する旨の提案を受領しました。これに対して当社及び本特別委員会は、最終的な意思決定は 2026 年 6 月 30 日に開催される当社取締役会での決議によることを前提として、当該提案の内容に対して応諾する旨を回答致しました。

その他の本取引の経緯の詳細につきましては、本意見表明プレスリリース及び本公開買付け結果プレスリリースも併せてご参照ください。



以上の経緯の下、当社は、リーガル・アドバイザーであるアンダーソン・毛利・友常法律事務所から、本取引に関する諸手続を含む当社取締役会の意思決定の方法及び過程その他の留意点について、必要な法的助言を受けるとともに、本特別委員会から2026年5月27日付で答申書（以下「5月27日付本答申書」といい、2026年6月29日付で提出を受けた追加答申書（以下「6月29日付本追加答申書」といいます。）と併せて「本答申書」といいます。）の提出を受けました（本答申書の概要及び本特別委員会の具体的な活動内容等については、下記「5. 本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置」の「(3) 当社における独立した特別委員会の設置及び意見（答申書）の取得」をご参照ください。）。その上で、当社は、2026年5月28日開催の当社取締役会において、リーガル・アドバイザーであるアンダーソン・毛利・友常法律事務所から受けた法的助言並びにファイナンシャル・アドバイザー及び第三者算定機関であるAGS FASから受けた財務的見地からの助言及びAGS FASから2026年5月27日付で取得した株式価値算定書（以下「本株式価値算定書」といいます。）の内容を踏まえつつ、本特別委員会から提出された本答申書の内容を最大限に尊重しながら、本取引により当社の企業価値の向上を図ることができるか、本取引における本公開買付価格を含む本取引の諸条件は公正なものか等の観点から慎重に協議・検討を行いました。

その結果、当社は、以下の点等を踏まえると、丸の内キャピタル及び小池氏が、当社の企業価値を向上させ、当社グループの更なる事業拡大及び収益性向上を図り、ひいては中長期的な企業価値の最大化に寄与するために、(ア) 顧客満足度（CS）調査事業における顧客基盤の拡大と収益機会の最大化、(イ)「オリコンニュース」をはじめとした当社メディアの媒体力の更なる強化、(ウ) AI・テクノロジーを活用した事業運営の更なる高度化、(エ) 経営体制の強化といった具体的な施策を企図していることは合理的であり、本取引を通じて当社株式を非公開化することが、当社の企業価値の向上に資するものであるとの判断に至りました。

（ア）顧客満足度（CS）調査事業における顧客基盤の拡大と収益機会の最大化について

当社は、現在約200あるランキングを「オリコン」ブランドを維持し、信頼性を担保できる範疇でこれまで増やしてきましたが、三菱商事グループが有する広範な産業接点の活用や異種データとの掛け合わせによる新たなランキング領域の創設、及びこれまで接点のなかった顧客紹介により、当社の顧客満足度（CS）調査事業の価値を更に高め、成長速度を加速することが可能となると考えております。更には、現状において顧客満足度（CS）調査は国内に限定され、収益機会の拡大には海外展開が必要と認識しつつも、当社グループ単独での海外展開には、人的リソースや現地の営業ネットワークの構築等の側面から限界を感じておりましたが、三菱商事グループのグローバル人材及びグローバル・ネットワークを駆使することにより、当社単独では成しえない海外展開が実現可能になると考えております。

(イ)「オリコンニュース」をはじめとした当社メディアの媒体力の更なる強化について  
当社が運営する「オリコンニュース」等のメディアの読者層は30代～40代世代が中心ですが、日本国内において読者層の高齢化が今後進んでいくと考えられる中で、持続可能な成長のためには10代～20代の若年層の取り込みが必要であると認識しております。

また、収益機会の最大化のためにはコンテンツ領域の拡大も重要であります。その一例として「Japan Anime News powered by ORICON NEWS」は、2024年4月に運営を開始し、日本発のアニメ・マンガ・声優・ランキング等に関する情報をアメリカ・東南アジア・オセアニアを中心に英語で毎日配信しておりますが、読者の拡大には相応の時間がかかるものと考えております。

これらのメディアを充実させ、読者層を拡大しつつ、様々な広告主にとってより魅力あるメディアになるためには、当社内の経営資源に限定せず、丸の内キャピタル及び三菱商事グループが持つ豊富なM&Aを含む投資の意思決定及びサービス改善のためのPDCAサイクルの経験・ノウハウを組み合わせることで、エンタテインメント分野に留まらず、他ジャンルの信頼性の高いコンテンツの質・量の向上が可能になると考えております。

(ウ) AI・テクノロジーを活用した事業運営の更なる高度化について

ゼロクリック検索と呼ばれるような消費者の行動の変化、広告クリエイティブの自動生成、広告配信のリアルタイム最適化、膨大なデータ分析の効率化・深化等、広告のあらゆるプロセスにおいてAIの導入が進んでおり、広告市場はより高度化・多様化しております。また、調査やデータ提供のみならず、消費者のニーズをとらえ、高品質なインサイト提供、予測・コンサルティングといった新形態のビジネスを展開していくためには、三菱商事グループが有する豊富なAI・DXの知見、人材及び国内外のネットワークは強力な推進力になるものと考えます。

(エ) 経営体制の強化

当社は、代表取締役会長である小池氏をはじめとする少数の経営陣へ依存した経営体制を補強し、また、上記(ア)から(ウ)の施策を迅速かつ確実に実行するためには、高度な専門性を有する人的リソースの確保・育成が急務であると考えております。丸の内キャピタルからの各種人材の派遣や人材の採用、教育、生産性向上のノウハウの提供を受けることにより、より高い確度とスピード感を持って推進することが可能になると考えております。

上記の諸施策は、中長期的に見れば大きな成長が見込まれる機会だとしても、必ずしも早期に当社グループの利益に貢献するものではなく、計画どおりに事業が展開しない事業遂行上の不確定リスクに加え、短期的にはAI・テクノロジーへの投資による償却費負担及び

グローバル人材、AI・テクノロジーに精通した人材等高度な専門性を有する人材への投資による人材関連費の増加が当社グループの財務状況や業績の悪化、ひいては株価の下落や配当の減少等、当社の株主の皆様に対して多大なリスクがあると考えられます。そのため、当社が上場を維持したままこれらの施策を実施した場合、短期的には当社の既存株主の皆様の利益を損なう可能性があると考えられるため、当社が上場を維持したままこれらの施策を実施することは困難であると考えております。一方で、本取引により、当社株式を非公開化することで、これらの施策を中長期的な目線で実行することが可能となるほか、当社株式の上場を維持するために必要な費用（有価証券報告書等の継続的な情報開示に要する費用、会計監査費用、株主総会の運営や株主名簿管理人への事務委託に要する費用等）を削減することができ、かつ、上場会社として必要となる管理部門の維持のための費用その他のコスト等、当社株式の上場を維持することによるその他の経営負担も軽減され、より一層、事業成長への経営資源の集中を図ることも可能になると考えております。

当社としても、当社の株主の皆様に対して短期的な悪影響を被ることなく株式を売却できる機会を提供するとともに、当社株式を非公開化することで、短期的な株式市場からの評価にとらわれず、かつ、機動的かつ柔軟な意思決定を可能とする株主と経営陣が一体となった強固かつ安定した新たな経営体制を構築した上で、丸の内キャピタル及び三菱商事グループが有する経営資源やノウハウを最大限活用することが、当社の更なる企業価値向上を実現する最良の選択であると判断いたしました。

一方で、当社は、本取引を通じて当社株式を非公開化することによるデメリットについても検討いたしました。当社株式の非公開化を行った場合には、①資本市場からのエクイティ・ファイナンスによる資金調達を行うことができなくなること、②上場会社としてのブランドを喪失することで従業員の採用及び定着に悪影響が生じること、及び③取引先をはじめとするステークホルダーに対する信用力が低下することが一般的には予想されると認識しております。しかしながら、当社の現在の状況に鑑みると、①については、当社は上場後に新株発行による資金調達は行っており、今後もエクイティ・ファイナンスの活用による資金調達の必要性は見込まれないことから、大きなデメリットにはならないと考えております。②については、当社は上場会社であるということよりも、長年培ってきた「オリコン」ブランドを確立していることから、非公開化後も高い認知度を維持することが期待でき、当社グループの従業員はこれまでと同様の高い意識をもって働くことが可能であり、人材採用へのデメリットは限定的と考えられます。③については、上記②と同様に、当社は既にブランドを確立しており、非公開化によるステークホルダーに対する信用力が低下するデメリットは限定的と考えられます。

以上を踏まえ、当社は、2026年5月28日開催の取締役会において、本公開買付けを含む本取引により当社株式を非公開化することが、当社の企業価値の向上に資するものであると判断いたしました。

また、当社は、本公開買付価格（1,332 円）は、下記「4. 1 株未満の端数が生じる場合の処理により株主に交付されることが見込まれる金銭の額及び当該額の相当性に関する事項」に記載のとおり、本公開買付けは、当社の一般株主の皆様に対して適切なプレミアムを付した価格での合理的な当社株式の売却の機会を提供するものであると判断いたしました。

以上より、当社は、2026 年 5 月 28 日開催の当社取締役会において、審議及び決議に参加した当社の取締役（取締役全 5 名のうち、小池氏を除く当社の取締役 4 名）の全員一致で、本公開買付けに賛同する旨の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様に対して、本公開買付けへの応募を推奨する旨の決議をいたしました。当該取締役会における決議の方法については、下記「5. 本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置」の「(4) 当社における利害関係を有しない取締役全員の承認及び利害関係を有しない監査役全員の異議がない旨の意見」をご参照ください。なお、当社の取締役のうち、小池氏はリトルポンドの代表取締役であり、本公開買付け終了後も継続して当社の経営にあたる事が予定されていることから、利益相反の疑義を回避する観点から、当社取締役会における本公開買付けへの意見表明に係る議案の審議及び決議には一切参加しておらず、また、本取引に関し、当社の立場において丸の内キャピタルとの協議及び交渉にも一切参加しておりません。また、当社は、2011 年 5 月 9 日開催の当社取締役会において「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」を定めるとともに、当該基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みとして、本買収への対応方針を導入することを決定し、2023 年 6 月 28 日開催の当社第 24 回定時株主総会において継続することを承認しておりますが、本取引の実施は当社の中長期的な企業価値の向上に資するものであると判断したことから、2026 年 5 月 28 日開催の当社取締役会において、本公開買付けに対して本買収への対応方針に従った手続を実施しないことを併せて決議いたしました。

その後、当社は、公開買付者との間で本買付条件変更について協議を行い、2026 年 6 月 30 日開催の当社取締役会において、本買付条件変更について慎重に協議・検討を行い、本買付条件変更に関する本特別委員会の意見等を踏まえ、本買付条件変更を踏まえても、本公開買付けに賛同する旨の意見並びに当社の株主の皆様に対して、本公開買付けに応募することを推奨する旨の意見を維持することを決定しました。

その後、上記のとおり、本公開買付けが成立しましたが、公開買付者は、本公開買付けにおいて当社株式の全て（ただし、本不応募株式、BBT 所有株式（役員向け）及び当社が所有する自己株式を除きます。）を取得することができなかったことから、本意見表明プレスリリースにおいてお知らせいたしましたとおり、当社は公開買付者の要請を受け、2026 年 8 月 7 日開催の当社取締役会において、本臨時株主総会において株主の皆様のご承認をいただくことを条件として、当社を公開買付者の完全子会社とするための一連の取引の一環と

して、当社の株主を公開買付者、リトルポンド及びHTIO（以下HTIO及びリトルポンドを総称して「本残存株主」といいます。）のみとするために、2026年9月30日を効力発生日として、本株式併合を実施することとし、本株式併合に係る議案を本臨時株主総会に付議することを決議いたしました。本株式併合により、公開買付者及び本残存株主以外の株主の皆様が所有する当社株式の数は、1株に満たない端数となる予定です。

## 2. 親会社等がある場合における当該親会社等以外の株主の利益を害さないように留意した事項

本株式併合は、本公開買付け後のいわゆる二段階買収の二段階目の手続として行われるものであるところ、本意見表明プレスリリース「3. 本公開買付けに関する意見の内容、根拠及び理由等」の「(3) 公開買付けの公正性を担保するための措置」に記載のとおり、公開買付者及び当社は、本公開買付けを含む本取引がいわゆるマネジメント・バイアウト(MBO)に該当する本取引の一環として行われるものであり、構造的な利益相反の問題が存在すること等を踏まえ、本公開買付け価格の公正性の担保、本公開買付けの実施を決定するに至る意思決定の過程における恣意性の排除及び利益相反の回避の観点から、本公開買付けを含む本取引の公正性を担保するため、下記「5. 本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置」に記載の措置を実施いたしました。

## 3. 1株に満たない端数の処理をすることが見込まれる場合における当該処理の方法に関する事項

### (1) 会社法第235条第1項又は同条第2項において準用する同法第234条第2項のいずれの規定による処理を予定しているかの別及びその理由

上記「1. 株式併合の目的及び理由」に記載のとおり、本株式併合により、公開買付者及び本残存株主以外の株主の皆様が所有する当社株式の数は、1株に満たない端数となる予定です。本株式併合の結果生じる1株未満の端数については、その合計数（その合計数に1株に満たない端数がある場合にあっては、当該端数は切り捨てられます。）に相当する数の株式を売却し、その売却により得られた代金を株主の皆様に対して、その端数に応じて交付いたします。当該売却について、当社は、本株式併合が、当社の株主を公開買付者及び本残存株主のみとすることを目的とする本取引の一環として行われるものであること、及び当社株式が2026年9月28日をもって上場廃止となる予定であり、市場価格のない株式となることから、競売によって買取人が現れる可能性は低いことに鑑み、会社法第235条第2項の準用する同法第234条第2項の規定に基づき、裁判所の許可を得て公開買付者に売却することを予定しております。

この場合の売却額は、上記裁判所の許可が予定どおり得られた場合には、本株式併合の効力発生日前日である2026年9月29日の当社の最終の株主名簿において株主の皆様が所有する当社株式の数に本公開買付け価格と同額である1,370円を乗じた金額に相当する

金銭が交付されるような価格に設定することを予定しております。但し、裁判所の許可が得られない場合や計算上の端数調整が必要な場合等においては、実際に交付される金額が上記金額と異なる場合もあります。

(2) 売却に係る株式を買い取る者となると見込まれる者の氏名又は名称

メディア株式会社

(3) 売却に係る株式を買い取る者となると見込まれる者が売却に係る代金の支払いのための資金を確保する方法及び当該方法の相当性

公開買付者は、本株式併合により生じる端数の合計数に相当する当社株式の取得に要する資金を、株式会社三井住友銀行（以下「三井住友銀行」といいます。）からの借入れ及び公開買付者親会社による公開買付者への出資により賄うことを予定しているところ、当社は、本公開買付けに係る公開買付届出書の添付書類として提出された、三井住友銀行からの借入れに関する 2026 年 5 月 28 日付融資証明書を確認することによって、公開買付者の資金確保の方法を確認しております。また、公開買付者によれば、本株式併合の結果生じる 1 株未満の端数の合計数に相当する当社株式の売却代金の支払に支障を及ぼす可能性のある事象は発生しておらず、また、今後発生する可能性も認識していないとのこと。

以上により、当社は、公開買付者による 1 株に満たない端数の合計数に相当する当社株式の売却に係る代金の支払のための資金を確保する方法は相当であると判断しております。

(4) 売却する時期及び売却により得られた代金を株主に交付する時期の見込み

当社は、2026 年 10 月上旬を目途に、会社法第 235 条第 2 項の準用する同法第 234 条第 2 項の規定に基づき、裁判所に対して、本株式併合の結果生じる 1 株未満の端数の合計数に相当する当社株式を売却し、公開買付者において当該当社株式を買い取ることにについて許可を求める申立てを行うことを予定しております。当該許可を得られる時期は裁判所の状況等によって変動し得ますが、当社は当該裁判所の許可を得て、2026 年 10 月下旬を目途に公開買付者において買い取りを行う方法により、当該当社株式を売却し、その後、当該売却によって得られた代金を株主の皆様へに交付するために必要な準備を行ったうえで、2026 年 12 月中旬を目途に、当該売却代金を株主の皆様へに交付することを見込んでおります。

当社は、本株式併合の効力発生日から売却に係る一連の手續に要する期間を考慮し、上記のとおり、それぞれの時期に、本株式併合の結果生じる 1 株未満の端数の合計数に相当する当社株式の売却が行われ、また、当該売却代金の株主への交付が行われるものと判断しております。

4. 1株未満の端数が生じる場合の処理により株主に交付されることが見込まれる金銭の額及び当該額の相当性に関する事項

上記「3. 1株に満たない端数の処理をすることが見込まれる場合における当該処理の方法に関する事項」の「(1) 会社法第235条第1項又は同条第2項において準用する同法第234条第2項のいずれの規定による処理を予定しているかの別及びその理由」に記載のとおり、端数処理により株主の皆様へ交付することが見込まれる金銭の額は、株主の皆様が所有する当社株式の数に、本公開買付価格と同額である1,370円を乗じた金額となる予定です。

また、当社は、以下の点等から、本買付条件変更前の本公開買付価格(1,332円)は当社の一般株主の皆様が享受すべき利益が確保された妥当な価格であり、本公開買付けは、当社の一般株主の皆様に対して適切なプレミアムを付した価格での合理的な当社株式の売却の機会を提供するものであると判断いたしました。

- (1) 本買付条件変更前の本公開買付価格が、下記「5. 本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置」の「(1) 当社における独立した第三者算定機関からの株式価値算定書の取得」に記載されている本株式価値算定書における算定結果のうち、市場株価法及びディスカунテッド・キャッシュ・フロー法(以下「DCF法」といいます。)に基づく算定結果のレンジの上限値を超える金額である。
- (2) 本買付条件変更前の本公開買付価格が、本公開買付けの公表日の前営業日である2026年5月27日の東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値1,044円に対して27.59%、同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値1,073円に対して24.14%、同過去3ヶ月間の終値単純平均値923円に対して44.31%、同過去6ヶ月間の終値単純平均値893円に対して49.16%のプレミアムをそれぞれ加えた金額である(以下、かかるプレミアム水準を「5月27日基準プレミアム」といいます。)ものの、当社決算短信及び当社業績差異プレスリリース(以下、総称して「当社決算短信等」といいます。)を公表して以降、当社株式の市場株価が下落することが予想されたところ、当社決算短信等は、当時の当社の足元の状況を踏まえて作成された上、有価証券上場規程等の定めに基づき適時に公表されたものであり、本取引とは無関係の要因によるものであることから、公表の時期及び手続等に、当社が意図的に当社株式の株価を下げる等の恣意的な目的は認められない。他方、本公開買付けが当社決算短信等の公表から近接した時期に開始されることから、少数株主保護の観点から、下落後の市場株価に基づいたプレミアム水準のみをもって本買付条件変更前の本公開買付価格の合理性を判断するのではなく、当社決算短信等の公表(2026年5月8日の立会時間終了後)がなされる前の2026年5月8日を基準日とした場合におけるプレミアムの水準(以下「5月8日基準プレミアム」といいます。)も考慮した上で、本買付条件変更前の本公開買付価格の合理性を判断する

必要があると考えられる。この場合、本買付条件変更前の本公開買付価格が、2026年5月8日の東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の終値 1,133 円に対して 17.56%、同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値 944 円に対して 41.10%、同過去3ヶ月間の終値単純平均値 888 円に対して 50.00%、同過去6ヶ月間の終値単純平均値 871 円に対して 52.93%のプレミアムをそれぞれ加えた金額である。5月27日基準プレミアムについては、経済産業省の「公正な M&A の在り方に関する指針」が公表された 2019 年 6 月 28 日以降に公表され、2026 年 3 月 31 日までに公開買付けが成立しているマネジメント・バイアウト（MBO）の類似事例（但し、対象会社が TOKYO PRO Market に上場している事例、二段階公開買付けの事例及び投資法人の事例を除く）104 件における、公表日前営業日の終値、並びに過去1ヶ月間、3ヶ月間及び6ヶ月間の終値単純平均値それぞれに対するプレミアムの中央値（対公表日前営業日終値：42.3%、対過去1ヶ月間：45.2%、対3ヶ月間：46.5%、対6ヶ月間：49.3%）に比して、公表日の前営業日の終値及び同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値におけるプレミアムとの関係では当該中央値を下回るものの、公表日の前営業日までの過去3ヶ月間及び同過去6ヶ月間の終値単純平均値におけるプレミアムとの関係では遜色のない水準にあると考えられること、また、5月8日基準プレミアムについては、基準日の終値及び同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値におけるプレミアムとの関係では当該中央値を下回るものの、基準日までの過去3ヶ月間及び過去6ヶ月間の終値単純平均値におけるプレミアムとの関係では、中央値を上回る水準にあると考えられること、及び、一般に PBR が高い銘柄は既に株式市場において企業価値が高く評価されているため、公開買付け案件における市場価格に対するプレミアムは低くなる傾向にあるところ、2026 年 5 月 27 日現在の当社の PBR は 2 倍を超えていることを踏まえ、全 104 件のうち、憶測報道がなされた案件を除いた PBR が 2 倍以上の事例 13 件のプレミアムの中央値（公表日の前営業日を基準日として、公表日の前営業日の終値に対するプレミアム並びに同日までの過去1ヶ月間、同過去3ヶ月間及び同過去6ヶ月間の終値単純平均値におけるそれぞれのプレミアムの中央値が 25.8%、24.6%、33.3%及び 28.3%）と比較すると、5月27日基準プレミアムについては、公表日の前営業日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値におけるプレミアムとの関係では、遜色のない水準にあると認められ、また、公表日の前営業日の終値に対するプレミアム並びに公表日の前営業日までの過去3ヶ月間及び同過去6ヶ月間の終値単純平均値におけるプレミアムとの関係では、中央値を上回る水準であること、さらに、5月8日基準プレミアムについては、基準日の終値に対するプレミアムとの関係で相応のプレミアムが付されていると認められ、基準日までの過去1ヶ月間、過去3ヶ月間及び過去6ヶ月間の終値単純平均値におけるプレミアムとの関係では、中央値を上回る水準であること、加えて、当社株式の株価推移について、直近1ヶ月においては一定の上昇傾向にあることを踏まえると、必ずしも直近の終値のプレミアムのみを重視するのではなく、直近3ヶ月間及び直近6ヶ月間のプレミアムも



相応に勘案することが適切であると考えられることから、5月27日基準プレミアムにおける公表日の前営業日の終値に対するプレミアム及び同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値におけるプレミアム、並びに5月8日基準プレミアムにおける基準日の終値に対するプレミアムが過去の類似事例のプレミアムと比較して低いとしても、そのことのみをもって本買付条件変更前の本公開買付価格におけるプレミアム水準が不合理なものとは言えないこと

- (3) 本買付条件変更前の本公開買付価格が、当社の直近5年間における終値の最高値である1,222円のみならず、場中の最高値である1,231円を上回り、当該期間において市場で当社株式を取得した株主に経済的不利益が生じない価格であること
- (4) 本買付条件変更前の本公開買付価格の決定に際しては、下記「5. 本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置」に記載の本買付条件変更前の本公開買付価格の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置が採られていること等、一般株主の利益への配慮がなされていると認められること
- (5) 本買付条件変更前の本公開買付価格が、上記利益相反を回避するための措置が採られた上で、本特別委員会の実質的な関与の下、当社と丸の内キャピタル及び小池氏との間で独立当事者間の取引における協議・交渉と同等の協議・交渉が複数回行われた上で決定された価格であること
- (6) 本買付条件変更前の本公開買付価格は、下記「5. 本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置」の「(3) 当社における独立した特別委員会の設置及び意見(答申書)の取得」に記載のとおり、本特別委員会から取得した5月27日付本答申書において、本買付条件変更前の本公開買付価格を含む本取引の条件は公正なものであると認められる旨の意見が示されていること
- (7) 本自己株式取得(リトルポンド)について、本自己株式取得(リトルポンド)に係るスキームは、法人大株主が存在する上場会社の非公開化取引において採用されることがある方法であり、自己株式取得価格と公開買付価格に差異を設けることで、公開買付価格の引上げにもつながり、一般株主の利益に資すると考えられること、また、本自己株式取得価格(リトルポンド)(888円)は本買付条件変更前の本公開買付価格(1,332円)よりも低い金額であること、そして、リトルポンドが本自己株式取得(リトルポンド)により得る税引後の手取額が本公開買付けに応募する場合に得る税引後の手取り額と同額以下になる金額であることから、本自己株式取得(リトルポンド)についても不合理な点はなく、妥当であると考えられること

以上より、当社は、2026年5月28日開催の当社取締役会において、審議及び決議に参加した当社の取締役(取締役全5名のうち、小池氏を除く当社の取締役4名)の全員一致で、本公開買付けに賛同する旨の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様に対して、本公開買付けへの応募を推奨する旨の決議をいたしました。当該取締役会における決議の方法に

については、下記「５．本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置」の「（４）当社における利害関係を有しない取締役全員の承認及び利害関係を有しない監査役全員の異議がない旨の意見」をご参照ください。なお、当社の取締役のうち、小池氏はリトルポンドの代表取締役であり、本公開買付け終了後も継続して当社の経営にあたる事が予定されていることから、利益相反の疑義を回避する観点から、当社取締役会における本公開買付けへの意見表明に係る議案の審議及び決議には一切参加しておらず、また、本取引に関し、当社の立場において丸の内キャピタルとの協議及び交渉にも一切参加しておりません。また、当社は、2011年5月9日開催の当社取締役会において「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」を定めるとともに、当該基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みとして、本買収への対応方針を導入することを決定し、2023年6月28日開催の当社第24回定時株主総会において継続することを承認しておりますが、本取引の実施は当社の中長期的な企業価値の向上に資するものであると判断したことから、2026年5月28日開催の当社取締役会において、本公開買付けに対して本買収への対応方針に従った手続を実施しないことを併せて決議いたしました。

その後、当社は、公開買付者との間で本買付条件変更について協議を行い、2026年6月30日開催の当社取締役会において、本買付条件変更について慎重に協議・検討を行い、本買付条件変更に関する本特別委員会の意見等を踏まえ、以下の点等から、本買付条件変更を踏まえても、本公開買付けに賛同する旨の意見並びに当社の株主の皆様に対して、本公開買付けに応募することを推奨する旨の意見を維持することを決定しました。

- （１）本買付条件変更は本取引の目的に影響を与えるものではなく、2026年5月28日以降、本取引が当社の企業価値の向上に資するかどうかの判断に重大な影響を与えるような事情も生じていないことから、本買付条件変更後も本取引は当社の企業価値の向上に資するものであり、その目的は合理的であると考えられ、本買付条件変更は本取引の成立可能性を向上させるという合理的な目的で行われるものであること
- （２）2026年5月28日以降、当社が作成し、株式価値算定の前提とされた本事業計画に変更はなく、本株式価値算定書は引き続き有効であると考えられ、2026年5月28日以降、当社の企業価値に影響を与える重要な状況変化は発生していないため、本取引の公表後も当社の本源的価値に変更はないものと考えられる。したがって、本買付条件変更後の本公開買付価格を1,370円とすることは引き続き公正・妥当であると考えられること
- （３）本自己株式取得価格（光通信グループ）は、法人税法に定めるみなし配当の益金不算入規定が適用される法人であるHTIOが本自己株式取得（光通信グループ）に応じた場合の税引後手取り額として計算される金額が、仮にHTIOが本公開買付けに応募した場合の本公開買付価格1,370円の税引後手取り額として計算される金額と同額以下となるよう設定されており、本公開買付価格の最大化と株主間の公平性を両立させることを

企図したものであること

- (4) ①本買付条件変更による買付予定数の下限の引下げは、本法定相続人からの、本相続株式 296,600 株（所有割合：2.28%）の全てについて本公開買付けに応募しない旨及び本臨時株主総会において本相続株式に係る本議決権行使を行う旨の誓約書の提出を受け、また、本不応募合意株主（光通信グループ）との間で、本不応募株式（光通信グループ）2,532,400 株（所有割合：19.46%）の全てについて本公開買付けに応募しない旨及び本臨時株主総会において本不応募株式（光通信グループ）に係る本議決権行使を行う旨等を合意したことを踏まえたものであること。すなわち、本買付条件変更後の買付予定数の下限である 1,074,300 株に、本相続株式 296,600 株及び本不応募株式（光通信グループ）2,532,400 株を合算した株式数は 3,903,300 株となり、従前の買付予定数の下限と同数となることから、本公開買付けが成立した場合には、本相続株式及び本不応募株式（光通信グループ）に係る本議決権行使が行われることを前提として、本臨時株主総会における本株式併合に係る議案の可決可能性の見通しは、本買付条件変更前と比較しても変更はないと考えられること、②本買付条件変更の検討において、本特別委員会が有効に機能したものと考えられること、③本取引に特別の利害関係を有する取締役を、本買付条件変更の検討・交渉過程から除外し、当社の立場において公開買付者との協議及び交渉に一切参加させておらず、また、今後開催される本取引に関する取締役会に関しその審議及び決議にも参加させない予定であること、④本買付条件変更について、充実した情報開示が予定されており、本公開買付けにおいては、引き続き一般株主による十分な情報に基づく適切な判断の機会が確保される予定であると認められること、⑤本買付条件変更後も引き続き本公開買付けに応募しない株主に株式買取請求権又は価格決定申立権が確保されないスキームは採用されておらず、本公開買付けが成立した場合に当社株式の非公開化が実現されない可能性は相当程度低いと認められ、かつ当社の株主に対し、詳細な開示が予定されていることからすれば、本買付条件変更後においても強圧性が排除されているものと考えられること等その他の公正性担保措置が十分に講じられていると評価できること

#### 5. 本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置

公開買付者及び当社は、本公開買付けを含む本取引がいわゆるマネジメント・バイアウト（MBO）に該当する本取引の一環として行われるものであり、構造的な利益相反の問題が存在すること等を踏まえ、本公開買付価格の公正性の担保、本公開買付けの実施を決定するに至る意思決定の過程における恣意性の排除及び利益相反の回避の観点から、本公開買付けを含む本取引の公正性を担保するため、以下の措置を実施いたしました。

なお、公開買付者は、本公開買付けにおいて、いわゆる「マジョリティ・オブ・マイノリティ」（Majority of Minority）の買付予定数の下限を設定すると、本公開買付けの成立を不安定なものとし、かえって本公開買付けに応募することを希望する当社の一般株主の利

益に資さない可能性もあるものと考え、本公開買付けにおいて、いわゆる「マジョリティ・オブ・マイノリティ」(Majority of Minority) の買付予定数の下限は設定していないとのことです。もっとも、公開買付者及び当社において、本公開買付価格の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置として、以下の措置を実施していることから、当社の一般株主の利益には十分な配慮がなされていると考えております。

(1) 当社における独立した第三者算定機関からの株式価値算定書の取得

当社は、本公開買付けに関する意見表明を行うにあたり、丸の内キャピタル及び小池氏から提示された本公開買付価格に対する意思決定の過程における公正性を担保するために、公開買付関連当事者及び当社から独立したファイナンシャル・アドバイザー及び第三者算定機関である AGS FAS に対して、当社の株式の価値の算定を依頼し、2026 年 5 月 27 日付で本株式価値算定書を取得しております。なお、当社は以下に記載のとおり、公開買付者及び当社において、本公開買付価格の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置を実施していることから、当社の一般株主の利益には十分な配慮がなされていると考えられることから、AGS FAS から本公開買付価格の公正性に関する意見書（フェアネス・オピニオン）を取得しておりません。

AGS FAS は、公開買付関連当事者及び当社の関連当事者には該当せず、本公開買付けを含む本取引に関して記載すべき重要な利害関係を有しておりません。また、本取引に係る AGS FAS に対する報酬は、本取引の過程に複数のマイルストーンを設定し、各マイルストーンに到達する都度支払われるマイルストーン報酬が含まれているところ、AGS FAS としては、本取引の成否が不明な中において、報酬体系を固定報酬のみとするよりもむしろ、報酬の一部をマイルストーン報酬とする方が当社の金銭的負担の観点から望ましく、双方にとっても合理性があると考えているとのことであり、当社としては、同種の取引におけるファイナンシャル・アドバイザーに関する報酬体系の実務慣行に鑑み、マイルストーン報酬が含まれていることをもって独立性が否定されているわけではないと判断しております。また、本特別委員会は、2026 年 2 月 25 日開催の第 1 回の本特別委員会において、AGS FAS の独立性及び専門性に問題がないことを確認した上で、当社のファイナンシャル・アドバイザー及び第三者算定機関として承認しております。

AGS FAS は、本公開買付けにおける算定手法を検討した結果、当社株式が東京証券取引所スタンダード市場に上場しており、市場株価が存在していることから市場株価法を、また、当社の将来の事業活動の状況を算定に反映させるために DCF 法をそれぞれ算定方法として採用し、当社株式の株式価値の算定を行いました。

AGS FAS によれば、上記の各手法に基づいて算定された当社株式 1 株当たりの株式価値の範囲は以下のとおりです。

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 市場株価法 | 893 円～1,073 円   |
| DCF 法 | 1,038 円～1,294 円 |

市場株価法では、本公開買付けに対する意見表明に係る当社取締役会決議日の前営業日である 2026 年 5 月 27 日を算定基準日として、東京証券取引所スタンダード市場における当社株式の基準日終値 1,044 円、直近 1 ヶ月間の終値単純平均値 1,073 円、直近 3 ヶ月間の終値単純平均値 923 円及び直近 6 ヶ月間の終値単純平均値 893 円を基に、当社株式の 1 株当たりの株式価値の範囲を 893 円から 1,073 円までと算定しております。

D C F 法では、当社が作成した事業計画（以下「本事業計画」といいます。）を基に、2027 年 3 月期から 2029 年 3 月期までの 3 期分の本事業計画における財務予測、一般に公開された情報等の諸要素を前提として、当社が 2027 年 3 月期第 1 四半期以降に生み出すと見込まれるフリー・キャッシュ・フローを一定の割引率で現在価値に割り引いて当社の企業価値や株式価値を算定し、当社株式の 1 株当たりの株式価値の範囲を 1,038 円から 1,294 円までと算定しております。なお、割引率は加重平均資本コスト（WACC : Weighted Average Cost of Capital）を採用し、11.28%～13.79%としております。資本コストの計算にあたっては、当社の企業規模等を勘案した上でサイズリスク・プレミアムを加味しております。継続価値の算定にあたっては永久成長率法を採用し、永久成長率は日本の物価上昇率を基に 0.56%～1.89%とし、継続価値を 6,306 百万円から 9,519 百万円と算定しております。

また、当社の保有する現預金については、当社における最低限の必要運転資金（2026 年 3 月期の売上原価及び販管費の合計額から償却費を控除した総費用を 12 で除した額。）を除き、残額を非事業用資産とし、当社の保有する投資有価証券については、純投資目的として税効果を加味した上で非事業用資産とし、当社の事業価値に加算しております。

本事業計画は、本取引の取引条件の公正性を検討することを目的として作成したものであり、公開買付関連当事者はその作成過程に一切関与しておりません。また、本事業計画は AI の進化への対応、物価上昇や人件費が高騰する市場環境の中で、サービスの付加価値の向上や売上の拡大を通して、利益を確保する前提を置いており、本事業計画の対象期間は、経営の各種施策を本事業計画に十分に反映させる一方で、AI の影響含め、WEB 広告等の市場環境の変化が激しいことを鑑みて 2027 年 3 月期から 2029 年 3 月期までとしております。

本事業計画については、本特別委員会は、その内容及び作成経緯等について当社との間で質疑応答を行い、当社の一般株主の利益に照らして不合理な点がないことを確認しております。

AGS FAS が D C F 法の算定の前提とした本事業計画に基づく財務予測は以下のとおりです。本事業計画には、対前年度比較において大幅な増減益及びフリー・キャッシュ・フローの大幅な増減を見込んでいる事業年度は含まれておりません。また、本取引の実行により実現することが期待されるシナジー効果については、本株式価値算定書作成時点において具体的に見積もることは困難であるため、本事業計画には加味されております。

(単位：百万円)

|               | 2027 年<br>3 月期 | 2028 年<br>3 月期 | 2029 年<br>3 月期 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|
| 売上高           | 6,561          | 6,699          | 6,854          |
| 営業利益          | 1,636          | 1,653          | 1,673          |
| E B I T D A   | 1,736          | 1,753          | 1,773          |
| フリー・キャッシュ・フロー | 1,119          | 1,144          | 1,149          |

(注) AGS FAS は、当社株式の株式価値の算定に際して、当社から提供を受けた資料及び情報、一般に公開された情報を原則としてそのまま使用し、分析及び検討の対象とした全ての資料及び情報が正確かつ完全であることを前提としており、これらの資料及び情報の正確性又は完全性に関し独自の検証を行っておらず、またその義務を負うものではありません。AGS FAS は、当社株式の株式価値の算定に重大な影響を与える可能性がある事実で AGS FAS に対して未開示の事実はないこと等を前提としております。当社グループの全ての資産又は負債（金融派生商品、簿外資産及び負債、その他の偶発債務を含み、これらに限られない。）について、個別の資産及び負債の分析及び評価を含め、独自に評価、鑑定又は査定を行っておらず、また第三者機関への評価、鑑定又は査定の依頼も行っておりません。AGS FAS は、提供された本事業計画その他将来に関する情報が、当社の経営陣による本株式価値算定書作成時点において可能な最善の予測と判断に基づき、合理的に確認、検討又は作成されていることを前提としており、独自に検証することなくこれらの情報に依拠しております。AGS FAS の算定は、2026 年 5 月 27 日現在における金融、経済、市場その他の状況を前提としております。なお、AGS FAS が提出した当社株式の株式価値の算定結果は、本公開買付価格の公平性について意見を表明するものではありません。

## (2) 当社における独立したリーガル・アドバイザーからの助言

当社は、本取引に係る当社取締役会の意思決定に慎重を期し、当社取締役会の意思決定過程における恣意性を排除し、その公正性を担保することを目的として、公開買付関連当事者から独立したリーガル・アドバイザーとしてアンダーソン・毛利・友常法律事務所を選任し、その後、本取引において手続の公正性を確保するために講じるべき措置、本取引の諸手続、並びに本取引に係る当社取締役会の意思決定の方法及び過程その他の本公開買付けを含む本取引に関する意思決定にあたっての留意点に関する法的助言を受けております。

なお、アンダーソン・毛利・友常法律事務所は、公開買付関連当事者の関連当事者には該当せず、本公開買付けを含む本取引に関して、重要な利害関係を有しておりません。また、アンダーソン・毛利・友常法律事務所の報酬は、時間単位報酬のみとしており、本取

引の公表や成立等を条件とする成功報酬は含まれておりません。本特別委員会は、当社が選任したリーガル・アドバイザーにつき、独立性及び専門性に問題がないことから、当社のリーガル・アドバイザーとして承認し、本特別委員会としても必要に応じて専門的助言を受けることができることを、本特別委員会において確認しております。

### (3) 当社における独立した特別委員会の設置及び意見（答申書）の取得

当社は、2026年2月25日付の取締役会決議に基づき、本取引における当社の意思決定の恣意性を排除し、意思決定過程の公正性、透明性及び客観性を確保することを目的として、公開買付関連当事者及び本取引の成否から独立した、藤原誠司氏（当社独立社外取締役）、森川幸氏（当社独立社外取締役・弁護士）及び石島徹氏（当社独立社外監査役）の3名によって構成される本特別委員会を設置しました。なお、本特別委員会の構成については、本特別委員会全体としての知識・経験・能力のバランスを確保しつつ、本特別委員会の開催の機動性及び意見の集約を円滑に図るため、適正な規模をもって構成する観点から、上記の3名を選定いたしました。本特別委員会については、選任から2026年5月28日に至るまで、委員の構成に変更がなく、本特別委員会の委員の互選により、藤原誠司氏が本特別委員会の委員長に就任しております。また、各委員に対しては、その職務の対価として、答申内容にかかわらず、固定の報酬を支払うものとしております。

そして、当社は、上記取締役会決議に基づき、本特別委員会に対し、(a) 本取引の目的は合理的と認められるか（本取引が当社の企業価値向上に資するかを含む。）、(b) 本取引の取引条件の公正性・妥当性が確保されているか（買収対価の水準、買収の方法及び買収対価の種類その他の取引の条件が公正なものとなっているかを含む。）、(c) 取引条件の公正さを担保するための手続が十分に講じられているか、(d) 上記(a)乃至(c)を踏まえ、本取引は当社の一般株主にとって公正であると考えられるか、(e) 当社取締役会が本公開買付けに賛同の意見を表明すること及び当社の株主に対して本公開買付けに応募することを推奨することの是非（以下、(a)から(e)を総称して「本諮問事項」といいます。）について諮問し、これらの点についての答申書を当社取締役会に提出することを委嘱しました。

また、当社は、上記取締役会決議において、当社取締役会における本取引に関する意思決定については、本特別委員会の設置の趣旨に鑑み、本特別委員会の判断内容を最大限尊重して行うものとし、本特別委員会が本取引に関する取引条件を妥当でないと判断したときには、当社取締役会は、当該取引条件による本取引を行わないものとする旨を決議しております。併せて、当社は、(i) 当社のファイナンシャル・アドバイザー及びリーガル・アドバイザー等の専門家（以下「アドバイザー等」と総称する。）を指名又は承認（事後承認を含む。）する権限、(ii) 本諮問事項の検討にあたって、本特別委員会が必要と認める場合には、自らのアドバイザー等を選任する権限、(iii) 当社の役職員その他本特別委員会が必要と認める者から本取引の検討及び判断に必要な情報を受領する権限、及び

(iv)本取引の取引条件に関する交渉について事前に方針を確認し、適時にその状況の報告を受け、重要な局面で意見を述べ、指示や要請を行うこと等により、本取引の取引条件に関する交渉過程に実質的に関与する権限を付与することを決議しております。これを受けて、2026年2月25日に開催された第1回の本特別委員会において、当社が選任する外部アドバイザー等について、いずれも独立性に問題がないことを確認した上で、リーガル・アドバイザーとしてアンダーソン・毛利・友常法律事務所を、ファイナンシャル・アドバイザー及び第三者算定機関として AGS FAS をそれぞれ選任することを承認いたしました。

本特別委員会は、2026年2月25日から2026年5月27日までに、合計14回開催したほか、各会日間においても電子メール等を通じて、意見表明や情報交換、情報収集等を行い、必要に応じて随時協議を行う等して、本諮問事項に関し、慎重に検討を行いました。

具体的には、本特別委員会は、当社から、当社の事業内容・業績推移、主要な経営課題、本取引により当社の事業に対して想定されるメリット・デメリット、本取引の条件の検討の際に基礎とされる本事業計画の策定手続等について説明を受け、質疑応答を行いました。また、本特別委員会は、2026年3月24日付で丸の内キャピタル及び小池氏に対して、本取引及び本取引後の経営方針等に関して書面による質問事項を送付し、同月30日付で書面による回答を受領し、同月31日開催の本特別委員会において、丸の内キャピタル及び小池氏から、本取引を提案するに至った経緯及び理由、本取引の目的、当社事業に関する評価、本取引の諸条件、本取引後の経営方針等について説明を受け、これらに対する質疑応答を行いました。更に、本特別委員会は、当社のファイナンシャル・アドバイザー及び第三者算定機関である AGS FAS による当社株式の価値算定の前提となる当社が作成した本事業計画について、その内容、重要な前提条件及び作成経緯等について当社から説明を受けるとともに、質疑応答を行った上で、その合理性を確認し、承認をしております。上記「(1) 当社における独立した第三者算定機関からの株式価値算定書の取得」に記載のとおり、AGS FAS は、本事業計画を前提として当社株式の価値算定を実施しておりますが、本特別委員会は、AGS FAS から、当社株式の株式価値の算定に係る算定方法、当該算定方法を採用した理由、各算定方法による算定の内容及び重要な前提条件に関する説明を受け、その算定過程に関して質疑応答を行った上で、当該算定結果の合理性について検討いたしました。以上の検討に際して、本特別委員会は、当社のリーガル・アドバイザーであるアンダーソン・毛利・友常法律事務所から、特別委員会の意義・役割等を含む本取引の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置の内容について助言を受けております。

そして、本特別委員会は、当社及び AGS FAS から、丸の内キャピタル及び小池氏の提案内容や協議・交渉の状況等につき適時に報告を受けた上で、アンダーソン・毛利・友常法律事務所及び AGS FAS から聴取した意見も踏まえて審議・検討するとともに、適宜意見を述べ、上記「1. 株式併合の目的及び理由」に記載のとおり交渉が行われ、公開買付



者との間で本買付条件変更前の本公開買付価格（1,332 円）の最終的な合意に至るまで、交渉方針や提案内容に対する回答書を協議・承認し、当社に対して指示・要請を行うなどして、公開買付者との交渉過程に実質的に関与いたしました。

その後、本特別委員会は、2026 年 6 月 25 日に、公開買付者より本買付条件変更につき当社及び本特別委員会が提案を受けたことを受け、同日に特別委員会を開催し、本買付条件変更について慎重に検討を行ったほか、6 月 29 日付本追加答申書の承認に至るまでの間、電子メール等を通じて報告・情報共有、審議及び意思決定を行いました。

本特別委員会は、以上の経緯の下、本諮問事項について慎重に審議及び検討を重ねた結果、2026 年 5 月 27 日付で、当社取締役会に対し、委員全員の一致で、5 月 27 日付本答申書を提出し、2026 年 6 月 29 日付で、当社取締役会に対し、委員全員の一致で、6 月 29 日付本追加答申書を提出いたしました。なお、5 月 27 日付本答申書において、本公開買付価格は、本買付条件変更前の本公開買付価格をいい、本自己株式取得は本自己株式取得（リトルポンド）をいいます。答申の理由を含む本答申書の詳細については、本意見表明プレスリリースの別添 1 の本答申書及び別添 2 の本追加答申書をご参照ください。

（４）当社における利害関係を有しない取締役全員の承認及び利害関係を有しない監査役全員の異議がない旨の意見

当社は、AGS FAS から受けた財務的見地からの助言、本株式価値算定書の内容、アンダーソン・毛利・友常法律事務所から受けた法的助言を踏まえつつ、5 月 27 日付本答申書において示された本特別委員会の判断内容を最大限尊重しながら、本公開買付けを含む本取引が当社の企業価値の向上に資するか否か、及び本公開買付価格を含む本取引に係る取引条件が公正なものか否かについて、慎重に協議・検討をいたしました。

その結果、当社は、上記「１．株式併合の目的及び理由」に記載のとおり、本取引が当社の企業価値の向上に資するものであるとともに、本公開買付価格を含む本取引に係る取引条件は当社の株主の皆様にとって公正であり、本公開買付けは、株主の皆様に対して、合理的な株式の売却の機会を提供するものであると判断し、2026 年 5 月 28 日開催の取締役会において、本公開買付けに賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様に対して、本公開買付けへの応募を推奨する旨を決議いたしました。

その後、当社は、上記「１．株式併合の目的及び理由」に記載のとおり、2026 年 6 月 30 日開催の当社取締役会において、本買付条件変更を踏まえても、本公開買付けに賛同する旨の意見並びに当社の株主の皆様に対して、本公開買付けに応募することを推奨する旨の意見を維持することを決定しました。

上記のいずれの当社取締役会においても、当社の取締役 5 名のうち、小池氏を除く 4 名が審議及び決議に参加し、決議に参加した取締役全員の一致により上記の決議を行っております。なお、上記取締役会には、当社の監査役 3 名全員が出席し、出席した監査役はいずれも上記決議を行うことについて異議がない旨の意見を述べております。

当社の取締役のうち小池氏は、リトルポンドの代表取締役であり、本公開買付け終了後も継続して当社の経営にあたることが予定されていることから、利益相反の疑義を回避する観点から、当社取締役会における本公開買付けへの意見表明に係る議案の審議及び決議には一切参加しておらず、また、本取引に関し、当社の立場において丸の内キャピタル及び小池氏との協議及び交渉にも一切参加しておりません。

#### (5) 当社における独立した検討体制の構築

当社は、上記「1. 株式併合の目的及び理由」に記載のとおり、当社は、本取引における構造的な利益相反の問題及び情報の非対称性の問題に対応し、当社取締役会の意思決定過程における恣意性を排除し、本取引の公正性、透明性及び客観性を担保するために、公開買付関連当事者から独立した立場で、本取引に係る検討、交渉及び判断を行う体制を社内に構築いたしました。具体的には、小池氏は、本取引に関して当社と構造的な利益相反状態にあるため、本取引に関する取締役会における審議及び決議には一切参加しておらず、また、当社の立場において公開買付関連当事者との協議及び交渉にも一切参加しておりません。当該検討体制は、全て公開買付関連当事者から独立性の認められる役職員4名（代表取締役社長の佐藤直也氏及び取締役の原田健明氏並びに執行役員2名）のみで構成することとし、本臨時株主総会招集の時点に至るまでかかる取扱いを継続しております。

また、かかる取扱いを含めて、当社の社内に構築した本取引の検討体制、具体的には本取引に係る検討、交渉及び判断に関与する役職員の範囲及びその職務（当社に株式価値の評価の基礎となる事業計画の作成等高い独立性が求められる職務を含みます。）は、アンダーソン・毛利・友常法律事務所の助言を踏まえており、当該体制に独立性・公正性の観点から問題がないことについては、本特別委員会の承認を得ております。

#### (6) 本公開買付けの公正性を担保する客観的状況の確保

公開買付者は、法令に定められた公開買付けに係る買付け等の最短期間が20営業日であるところ、公開買付期間を30営業日に設定しておりましたが、2026年6月30日、本買付条件変更に伴い、法令に基づき、公開買付期間を公開買付届出書の訂正届出書の提出日である2026年6月30日から起算して10営業日を経過した日にあたる2026年7月14日まで延長し、合計33営業日に変更しているとのことです。このように、公開買付期間を法定の最短期間より長期に設定することにより、当社の株主の皆様が本取引の是非や本公開買付価格の妥当性について熟慮し、本公開買付けに対する応募の是非について適切な判断を行うための期間を提供しつつ、対抗的な買付け等を行う機会を確保することにより、本公開買付けの公正性を担保することも企図しているとのことです。

また、公開買付者と当社は、当社が対抗的買収提案者と接触することを禁止するような取引保護条項を含む合意等、対抗的買収提案者が当社との間で接触することを制限する

ような内容の合意を行っておりません。このように、上記公開買付期間の設定とあわせ、対抗的な買付け等の機会が確保されることにより、間接的なマーケット・チェックを行い、本公開買付けの公正性の担保に配慮しております。なお、本取引においては、積極的なマーケット・チェックが実施されていないものの、当該手法については情報の漏洩等による事業や株価への悪影響のおそれ等が懸念されることに加え、本公開買付けを含む本取引の公正性を担保するために実施された各種措置の内容に鑑みれば、積極的なマーケット・チェックが採用されていないことのみをもって、本公開買付けにおける公正性の担保として不十分であることにはならないと考えております。

### Ⅲ. 当社において最終事業年度の末日後に生じた重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の会社財産の状況に重要な影響を与える事象

#### (1) 本公開買付け

上記「1. 株式併合の目的及び理由」に記載のとおり、公開買付者は2026年5月29日から2026年7月14日まで本公開買付けを行い、その結果、2026年7月22日（本公開買付けの決済の開始日）をもって、当社株式4,103,380株（所有割合31.53%）を保有するに至りました。

#### (2) 2027年3月期配当予想の修正（無配）

当社は、2026年5月28日付で公表いたしました「2027年3月期配当予想の修正（無配）に関するお知らせ」に記載のとおり、同日開催の取締役会において、本公開買付けが成立することを条件として、2027年3月期の配当を行わないことを決議しております。詳細については、当該公表内容をご参照ください。

#### (3) 自己株式の消却

当社は、2026年8月7日開催の取締役会において、2026年9月29日付で、当社自己株式2,109,125株（2026年6月30日時点で当社が所有する自己株式の全部に相当します。）を消却することを決議いたしました。なお、当該自己株式の消却は、本臨時株主総会において本株式併合に関する議案が原案どおり承認可決されることを条件としており、消却後の当社の発行済株式総数は、13,014,075株となります。

以上